

薬剤部だより No.163

山口大学病院薬剤部

2003.8.19

病棟活動における患者情報の共有化を図っています

現在 8 診療科を対象に服薬指導を行っています。これまで、カルテや看護記録の閲覧によって得た患者情報を利用して服薬指導を行ってきました。その際、処方依頼や処方変更(処方薬、投与量、剤形等)等、処方する上で重要な情報に関しては、様々な方法で主治医と連絡を取ってきました。しかし、よりよい薬物療法を行うためには、服薬指導によって得られたコンプライアンス等に関するより多くの情報を医療スタッフ間で共有することが大切だと考えます。その一歩として、これまで一部の診療科で行ってきた情報提供(看護記録に記載する等)を、服薬指導を行っている全診療科で始めました。カルテあるいは看護記録に薬剤師のコメントを記載していますので、診療・看護にお役立てください。

特定生物由来製品の説明文書発行システムが稼働しています

先月号でお知らせしましたように、特定生物由来製品については患者さんへの十分な説明が義務付けられています。これに対応するため 8 月 1 日から該当薬剤をオーダすると、説明文書が初回時、自動的に発行されるようシステム化しました。初回処方時に限り薬剤に添付して調剤していますので、患者さんへの説明にご活用ください。

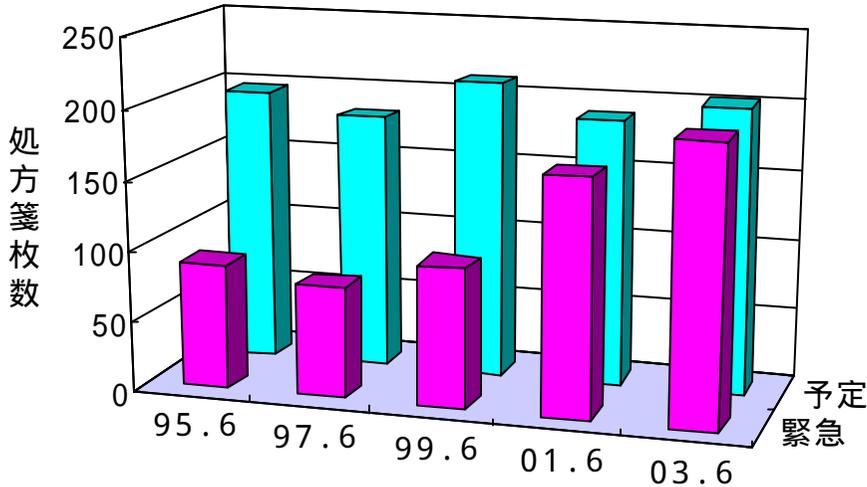
オーダ入力時の薬品名が 3 文字検索になります

オーダリング時の薬品選択ミスによる医療事故が全国的にも叫ばれています。当院においては、現在 2 文字でも薬品名の検索(50 音検索)ができています。しかし、2 文字では『サクシンとサクシノン』『アルカルミンとアルケラン』『タキソールとタキソテール』『アドナとアドリアシン』等のような薬剤誤選択による医療事故が懸念されます。現在、抗悪性腫瘍剤や筋弛緩剤、糖尿病薬等の危険性の高い薬品に関して、薬品名の横に薬効を出力させたり、調剤時に病名や使用方法をチェックすることで選択ミスをなくすよう工夫をしていますが、更に 9 月 1 日(予定)から、オーダ入力時の薬品名検索(50 音検索)を、これまでの 2 文字検索から 3 文字検索に変更します。

ダンリッチが常備薬から削除になりました

先日お知らせしましたように、ダンリッチが発売中止になる予定です。従って、8 月 13 日より常備薬から削除になりました。

予定注射を活用して緊急注射を減らしましょう



上図のように入院緊急注射の処方箋が増加しています。平成6年7月に注射オーダを稼働してから、予定注射処方を中心に運用をしております。しかし最近、緊急注射と予定注射の発行枚数が同じになりつつあります。この原因としては、予定注射の出し忘れや変更忘れが挙げられます。1人の患者さんに対して何枚も処方箋を発行すると、重複投与や実施の有無がわからなくなる等、リスクマネジメントの観点からも好ましくありません。予定注射を最大限に活用して、緊急注射処方を減らすよう、ご協力をお願いします。

酸化マグネシウムの色調が変わりました

緩下剤・制酸剤として多くの患者さんに使用されている酸化マグネシウムの色調が、原料の精製度の向上により、薄いピンク色から白色に変わりました。薬効等は問題ありませんので、従来どおりにご使用ください。

夜間は必ず電話連絡をしてください

最近、夜間に電話連絡をせずに処方箋が送られてくることが多く、困っています。時間帯(特に深夜)によっては、処方箋が到着しても宿直室が離れているため全く分かりません。そのために、『処方箋を送ったのに薬がまだ来ない』という催促の電話を受けることとなります。なかには、朝まで送りっぱなしという不必要な処方箋もあります。このような無駄な作業を増やさないためにも、夜間は必ず連絡ください。なお、再三お願いしてきましたように、夜間は出し忘れではなく本当に必要な処方だけにしてください。宿日直業務は、通常の労働はできないことになっています。

残暑お見舞い申し上げます